



IDATEN セミナーテキスト編集委員会(編)
『市中感染症診療の考え方と進め方 第2集
IDATEN 感染症セミナー実況中継』

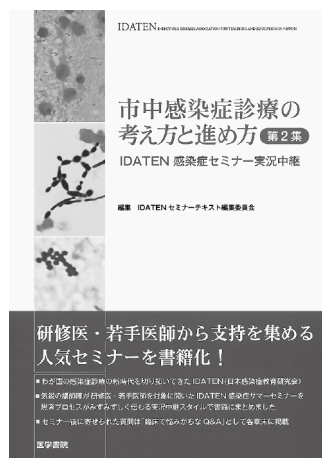
[評者] 飯塚病院総合診療科診療部長 清田雅智

大野博司先生(洛和会音羽病院 感染症科)は、研修医時代に評者が指導医として実際に接した勤勉なる先生である。2年次の2002年に抗菌薬の適正使用を目指し、自ら講師になり感染症の院内勉強会を自分で計画立案した。さらには、院外でも夏と冬にその勉強会を自主開催し、それがのちに「IDATEN 感染症セミナー」となり、現在も続いている。彼がその準備のために深夜まで資料づくりに励んでいたことを間近で見ていたが、その企画力とバイタリティには深く感銘を受けた(研修医ですよ!)。評者はこの感染症の勉強会資料を「贈り物」として受け取っていたが、その内容はさらに発展し2006年、医学書院より『感染症入門レクチャーノート』として上梓された。

その彼の発案で、IDATEN 感染症セミナーを2007年1月に飯塚病院で行いたい旨の連絡があった。二つ返事で了承し、評者は幹事として全国80名の医師と学生さんのお世話をさせていただき、今でもIDATENの活動を陰ながら見続けている。その当時の参加者リストは今でも持っているが、現在色々な分野で活躍をされていることに気づき、この活動がもたらした効果を今さらながらに驚いている。飯塚開催のセミナーのスライドも手元にあるが、IDATENが伝えてきた教育のコンテンツのレベルは、2005年メイヨー・クリニック感染症科に留学時のモーニングレクチャーとさほど遜色がないことに気づいていた。この教育内容を活字化した前書(第1集)が2009年に上梓され、評者は当然のように購読したが、セミナーを受講できない人に対する重要なテキストになっているという感想をもっていった。

そして今回、6年の歳月を経て、その第2集が刊行された。大野先生が勇退し、その事業を彼の飯塚病院の後輩でもある山本舜悟先生と、IDATENのメーリングリストで素晴らしい発言をされていた上山伸也先生が引き継いだことに時代の推移を感じとった。

前書に比べて、本書はさらに臨床的な広さと奥行きを増した本となっていた。以前は感染症の基礎知



識である微生物や抗菌薬の記載もあったが、省かれている(つまりはそれを伝える類書が十分にあり)。それでも前書より100頁以上増えている。新たに、小児の感染症、ワクチン、「かぜ」、リンパ節腫脹、HIV診療、渡航医学の領域の内容が加わり、時代の要請に沿った内容の変更が行われていることがわかる。

本書は、臨床感染症の優れた入門書という位置づけが確定したと思う。感染症を極めようとする、4,000頁にも及ぶ膨大な“Mandell”(Saunders)のような成書を紐とく羽目になるが、300頁程度でコンパクトにまとめられた本書は最初に読むべき本であろう。初学者にも後期研修医にも対応できている内容であることが、評者の目からは確認できた。

●B5/頁364/2015年/定価:本体5,500円+税
[ISBN978-4-260-02056-5] 医学書院刊